

——外交官を志したきつかけは？

モラレス 大学では法律を専攻し、国際関係にも関心を持っていました。大学院へ進んで国際関係論を学ぶか、外国投資経済協力省に就職するか迷ったのですが、現場に身を置けば、実際的な知識を得られるだろうと、就職することにしました。

トウトウ 私は特に外交官になりたいと思っていたわけではありません。大学の専攻は経営学で、会計が専門でしたから。卒業後、スーダン外務省に勤める友人からのすすめで試験を受けたら、なぜか合格してしまいました。それからは発奮して、高校でやめていた英語学習を再開しました。

カイルル 私も会計と財務を勉強して

ました。マレーシア政府の奨学金をもらってイギリスに留学し、マレーシア最大の銀行に就職しました。あるパーティで外務省の方と知り合い、外交官の仕事に興味を覚えるようになりました。銀行員の仕事は自分のためでしたが、国がイギリス留学の奨学金を出してくれたことを考えると、そろそろ国に対して何かをする番だろうと思えました。国家や公益に尽くす外交官という職業に魅力を感じて転職したのです。

——日本語を学ぶ前から日本や日本語に関心をお持ちでしたか？

カイルル 日本にはそれほど親しんでいた

大 阪の関西国際空港の対岸にある「関西国際センター」はジャパンファウンデーションが運営する日本語研修施設です。ここで実施される外交官・公務員日本語研修は、諸外国の外務省とその他政府・公的機関の若手職員を日本に招へいし、日本語および日本事情の研修を行なうもので、1回の研修に世界各国から約30名の外交官・公務員が参加し、センター内の宿泊棟で全員が寝食をともにします。

研修期間は9カ月（10月から翌年6月）。研修生のニーズに合わせたカリキュラムを通して、効率的に自らの職務に役立つ日本語能力を身につけることを目指します。また、日本の社会や文化の理解を目的に、講義・セミナー・各種機関訪問、研修旅行、文化体験等の活動のほか、日本との人的ネットワークを広げるため、日本の外交官・公務員・民間企業関係者・学生・地域住民等との情報交換・交流の機会も提供しています。

外交官日本語研修は、1981年にアジア文化会館で始まり、89年からジャパンファウンデーションがその実施を引き継いでいます。第24期（2004年度）までに、のべ464名が、また、1997年から始まった公務員日本語研修は、第8期（2004年度）までに、のべ60名が修了しています。多くの修了生がその後、日本の在外公館に配属になり再来日するなど、日本との外交に関わる業務に就いています。

外交官として 日本語を 学ぶ意味

ジャパンファウンデーション
関西国際センター
外交官・公務員日本語研修
研修生に聞く

ジャパンファウンデーション関西国際センターが外務省の協力を得て実施している外交官・公務員日本語研修に、2004年10月から参加している3名の方にお話をうかがいました。



想外の出来事でした。上司から打診があった際は本当に驚きましたが、次の瞬間には好奇心でいっぱいになりました。

— 研修に来る前と来たあとでは、日本のイメージに変化はありましたか？

カイルル マレーシアではマハティール前首相が「ルック・イースト政策」を掲

とは言えません。外交官日本語研修も上司からすすめられ、マレーシア外省には日本語が堪能な外交官は多くないので、これはチャレンジだと思いい、参加しました。それからは日本の存在を意識し、日本の情報を集めるようになりました。

トウトウ 私も上司にすすめられてこの研修を知りました。研修に参加した先輩外交官がいて、彼は現在、東京のスーダン大使館で勤務しています。

モラレス 私は外国投資経済協力省の職員として、キューバと日本との経済協力を深める業務についていたので、日本に縁があったと言えます。キューバで日本のテレビドラマを見たり、マンガを読んだりしていたので、私なりのイメージは持っていました。でも、日本に来て日本語の研修を受けるのは予

げ、日本を先進国として見習おうという気風があり、日本についての情報があふれています。個人的にも、日本人は他のアジアのどの国よりも勤勉な国民だと思っていましたし、マレーシアの将来の発展のためには見習うべき国だろうと漠然とした考えだけがありました。

トウトウ 日本のイメージは自動車などの工業製品や高度な先進国であるということくらいでした。家族や友だちは「帰ってくるときはトヨタの車を1台お土産に頼む」なんて言うのが一番多かったですよ（笑）。実際に来てみて、日本の人々はとても親切でフレンドリーだとわかり、うれしい驚きでした。

モラレス 日本といえば、昔のドラマなど

で見た強いサムライのイメージが大きかったですね。一方で、第二次世界大戦で負けたあと、世界有数の先進国に成長したことは知っていましたから、相当勤勉なのだろうなど。日常生活で戸惑うことや驚くことは、やはり多々あります。電器店にはいつも最新モデルの電化製品がものすごい種類で並んでいるとか、あと日本人が物事を進めるテンポがとても速いとか。

トウトウ 私は本当にいろいろと衝撃を受けましたが、一言でまとめると「日本では何事にも解（ソリューション）がある」ということでしょうか。身近な例で言うと、知人とサウナのあるスーパー銭湯に行ったのですが、彼は背が高く、足のサイズもとても大きかったので、そののスリッパが入らなかつたのです。2週間後にまた一緒に行つてみると、今度は彼のためだけに、とても大きいサイズのスリッパが用意されていて、びっくりしました。何か問題があったら放置せずに、有機的に解決しようとする姿勢が印象的でした。

— 関西国際センターでは研修の一環で日本人との交流の機会が多数ありますね。
カイルル ええ、自分の国を紹介する機会

↑ジャパンファウンデーション関西国際センター。各国から研修生が集まり、それぞれのニーズに応じたカリキュラムで日本語を学んでいる



カイルル・ナズラン・ビン・アブドゥル・ラーマン ● マレーシアのマラ理科大学を卒業後、イギリスのサルフォード大学で会計・財務を学ぶ。民間企業勤務を経て、2003年マレーシア外務省入省

がかなり多くあります。先日も地元の国際交流の集まりに出ましたし、「スピーチとプレゼンテーション」という科目の最後のプレゼンテーションには、日本人のお客様も外部から招かれました。講演などで、自分の国や文化について質問を受けて、それに答えて、日本の皆さんに自分の国について紹介するのは、本当に充実感を覚えます。

トウトウ 地域の国際交流団体の主催の集まりで講演をしたり、大阪のビジネスマンの集まりに呼んでいただいたりと、いろいろな話す機会があります。印象的だったのは、大阪外国語大学の学生が、関西国際センターのオープンデー（注：近隣住民向けに開放するオープンハウス型のイベント、年1回実施）に来て、私にスーダンの結婚式について尋ねました。英語のクラスで発表するということで、いろいろと教えてあげました。スーダンの結婚式は長い儀式があり、そのなかにさまざまな伝統文化が集約され、とても興味深いものです。その後、彼女がレポートを書いて提出したところ、指導教官が私を大学に招いてくださって、直接クラスで話すことになりました。これ以上、結婚式について知りたいなら、スーダンの男性

と結婚して、実際に自分で体験してください、と言いました（笑）。

——日本語は皆さんにとって、第2あるいは第3の外国語になると思います。英語を学ぶことと日本語を学ぶことで、何か違いや難しさを感じましたか？

カイルル 英語は小さいころから勉強していますから、学習時間に大きな違いがありません。それに、マレー語を母語にするものにとつては、アルファベットを使うという点で英語とは類似点がありますが、日本語は文字から学習しなくてはならないという点で難しさがあります。

トウトウ 私の場合は、アラビア語、フランス語、英語につぐ、4番目の外国語として日本語があります。動詞が来る順番が違ったり、母音が連続する発音があるのには、最初ちょっと戸惑いました。もう慣れてきましたけれど。

モラレス 英語と日本語はまったく違う言語なので、比べようと思ったことはありません。でも、母語のスペイン語と日本語は比較的発音が似ていますし、日本の映画やドラマをテレビ番組で見ていたこともあって、聞き取りはあまり難しくなないように思います。

——研修後、カイルルさんとトウトウさんはすぐにそれぞれ東京の大使館に勤務される予定かどうかはありましたか？

トウトウ はい。おそらく3〜4年は勤務するので、すぐに日本語学習を役立てる機会が来ます。今の「サバイバル」レベルから、業務がこなせるレベルまで上達するように勉強を続けなくてはならないですね。

カイルル 来日当初は日本語で何かを表現することもままならなかったのに、6カ月経った今では、あることを頼むのに数通りの言い方で表現できるようになりました。また、日常会話だけでなく、政治の話題や社会問題についても、話せるようになってきました。それでも、まだ日本語の勉強は難しいと思っています。

モラレス 残念ながら、私は研修のあと、母国に戻ります。でもいつか日本で働くことができたいと思います。キューバと日本の経済協力がより緊密になることを願っています。ただ、経済的な関係だけでなく、キューバの人に日本の文化や価値観などが知られるような文化交流の働きかけも、重要だと思います。

——どうもありがとうございました。



ガーファル・ソミ・トゥットウ・クク ●スーダンのハルツーム大学で経営学を学ぶ。2001年スーダン外務省入省



ヤリナ・モラレス・モレホン ●キューバのハヴァナ大学で法学を学び、弁護士資格を取得。2002年にキューバ外国投資経済協力省入省後は国際法アドバイザーとして、日本・キューバの経済協力関係業務に従事